

# 令和4年度 盛岡青松支援学校 第1回学校評議員会 議事録

1 日 時 令和4年6月28日(火) 10:30～11:30 (学校見学 10:00～)

2 場 所 会議室

3 出席者

(1) 学校評議員 (7名)

工藤評議員、赤坂評議員、小笠原評議員、坂川評議員、高橋評議員、小野寺評議員、村上評議員

(2) 本校職員 (12名)

校長、副校長、事務長、総括教務主任、各学部主事(小・中・高)、総務部長、生徒指導部長、進路指導部長、記録者

4 内 容

(1) 学校評議員の委嘱および職務について

(2) 校長挨拶

- ・新型コロナウイルスの影響も3年目に入り、油断は出来ない状況だが、感染状況も減少傾向にあり、本校でも基本的な感染対策と学習の両立を図っている。
- ・昨年度の学校評議員会では学校見学も割愛した状況だったが、今年度は児童生徒の活動の様子をみていただくことができた。
- ・最近では小学部ではスポーツ大会、中学部では修学旅行、高等部では実習に取り組んでいる。活動の幅がだんだんと広がりつつある。
- ・評議員会は保護者や地域の皆さんからのご意向をいただき、反映させ、協力していきながら学校を運営していくもの。
- ・本校への忌憚のない、意見を頂戴したい。

(3) 令和4年度 岩手県立学校経営計画

校長

- ・今年度小学部6名、中学部13名、高等部16名でスタートしているが、高等部の生徒の減少が大きくなってきている。
- ・本校の疾病別児童生徒数は精神及び行動の障がいが多く(割合85.7%)、また全国的にも増加している状況である。
- ・今年度の重点目標

(4) 在籍児童生徒の概要

副校長：田村

- ・児童、生徒の数は例年減少傾向である。
- ・疾病別児童生徒について

精神及び行動の障がいは、平成28年度42%、平成29年度50%、今年度85.7%と

増加傾向にある。

- ・本校は寄宿舎がなく自力での通学が基本のため、盛岡市や滝沢市からの入学生が多いが、ことりさわ学園、みどり学園入所の児童・生徒がおり、出身地は県内各地となっている。
- ・医療的ケアが必要な児童1名在籍。

#### (5) 令和4年度教育活動について

小学部主事：鈴木

- ・スクールスタンダードの実施。
- ・東松園小学校との交流では、対面での学習はできないが、動画を用いた交流を通して学習を深めていきたい。
- ・交流籍を活用した交流及び共同学習 6名中4名希望
- ・集団での活動が難しい部分もあるが、小学部で協力しながら活動の幅を広げている。
- ・地域との連携ではJ A岩手での農業体験を行っている。
- ・小学部だよりの紹介

中学部主事：芳賀

- ・昨年度からふれあいランドを利用し、陸上記録会を実施。
- ・生徒会行事の紹介
- ・職員も一緒になり活動を行ったり、生徒達が自分たちで考えながら活動している。

高等部主事：小野寺

- ・卒業後の自立と社会参加に向けて学習に取り組んでいる。
- ・働く力を身に付けるために前期・後期年間4週間の実習に取り組んでいる。
- ・本人が社会常識、マナーを意識し、卒業後安心して暮らしていけるように関係機関との連携を大切にしている。

#### (6) その他

##### ○コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

- ・県内でも何校かの学校で取り組んでいる。
- ・特別支援学校16校のうち、現在2校が取り組んでいる。
- ・本校の取り組み方については、現在検討しているところ。県内各地から児童、生徒が入学しており、学校と地域だけでは難しく関係機関との連携も必要。
- ・松園地域を中心に進めていければとも考える。
- ・学校及び地域が一つになり交流が進んでいく中で、コミュニティ・スクールの方向性を次回の評議委員で示すようにする。

#### (7) 学校評議員からの意見・提案

村上評議員

コミュニティ・スクールについて

校長

- ・制度としては始まっているが、実施年度は各校が決めることになっている。
- ・来年度に向けコミュニティ・スクールの実施について今後検討していく。

#### 赤坂評議員

##### 精神及び行動の障がいについて

- ①岩手県内の状況 精神及び行動の障がいのある児童、生徒の割合について
  - ・盛岡青松支援学校だけでなく、県内でも増加傾向なのか。
  - ・盛岡青松支援学校しか対応できないのであれば、岩手県内の精神及び行動の障がいの児童、生徒の受け入れとなってほしい。市町村との連携を深めていってほしい。
  - ・盛岡青松支援学校の在り方。
- ②盛岡青松支援学校の生徒の受け入れについて
  - ・みどり学園でも盛岡青松支援学校に入学させたい子どもも居るが、地域の教育委員会等の判断で地域の学校に通学している児童、生徒がいる。

#### 校長

- ・全国的な流れとしてインクルーシブ教育の中で、地域の学校での学習が基本となつてきている。
- ・特別支援学校の生徒数は減少傾向にあり、小学校、中学校では就学支援委員会にて特別支援学校の受け入れを検討している。
- ・特別支援学校は今後縮小していくのかもしれない。
- ・支援が必要な児童、生徒に対して手厚く支援できるのは支援学校だが、地域の学校で学びたい子どもたちも多い。
- ・教育相談を行い、支援が必要な児童、生徒に対しては受け入れる体制を整えている。
- ・慢性疾患に対応した教育に対しては、教育課程を考えながら検討していく。
- ・進路も現状も大きく変わってきている。それに対応できるようにしていきたい。

#### 田村副校長

- ・本校にはコーディネーターが4名在籍している。
- ・滝沢市、岩手町の学校の支援にあたっている。

#### 工藤評議員

- ・みどり学園生がゴミ拾いを行ってくれており、感謝している。
- ・地域との連携を通して社会活動に役立っている。
- ・松園夏祭りはコロナの影響で近年は参加できていないが地域も楽しみにしている。
- ・子どもたちの活躍の場を広げられるようにしていきたい。

#### 小笠原評議員

- ・学校見学をしてみて、小学部、中学部、高等部のそれぞれの雰囲気を感じた。
- ・さわら園には平成26年度卒業生の1名がおり、最初はなかなかコミュニケーションがうまく取れていなかったが、現在は積極的に活動できるようになっている。
- ・コミュニティ・スクールを通して人と交わる機会を増やしていけるといいのではな

かと感じた。

#### 坂川評議員

- ・せいわ病院に入院している子どもたちの教育の保証が課題。
- ・精神及び行動の障がいの内訳（細分化）
- ・特別支援学校自体が減少することはいいことかもしれないが、特別な教育を必要としている生徒は増えている。
- ・盛岡青松支援学校で学び、地域に戻せるように、短期でも利用できる仕組みや学校の良さを今後もアピールして行ってほしい。

#### 高橋評議員

- ・ここ10年くらいで児童、生徒の様子が変わってきている。
- ・コミュニティ・スクールの話があったが、博物館としては、博物館と学校との連携（博学連携）を行っており、学芸員による出前授業を生徒の能力にあわせて実施する。
- ・出前授業の実施や、学校と博物館との連携の中で学習支援につながってほしい。

#### 小野寺評議員

- ・コミュニティ・スクールについて、コロナの影響で生徒と地域との連携が難しくなっている。コロナ禍により松園中学校でも夏祭りに行っていたソーランができなかったり、校歌を最後まで歌わないで卒業している生徒もいる。
- ・学校としては1つひとつ再生をしていく必要。
- ・支援が必要な生徒もおり、コーディネーター以外で相談したい場として活用させていただきたい。

#### (8) 校長謝辞

- ・忌憚のない意見をいただきありがたい。
- ・特別支援教育や地域との連携などさまざまな視点からご意見をいただき、すぐに答えがでるものだけではないので、相談しながら学校運営に活かしていきたい。

#### (9) 閉会

- ・次回は来年1月下旬を予定しており、12月に案内をするもの。